

2021年度・2022年度実施：原町田大通りににおける社会実験の結果（概要版）

2021原町田大通り滞留空間創出社会実験～もしも原町田大通り～



○概要

都市再生推進法人である(株)町田まちづくり公社とともに、原町田大通り上に「パークレット※1」を設置し、訪れた方による日常的な使われ方を検証した。
※1…車道の一部を転用した、休憩や飲食ができる「人」のための空間。

【日時】2021年11月20日（土）～12月20日（月） 午前8時～午後6時

○滞留空間の振り返り

- 😊 休憩、飲食、読書などさまざまな使い方がされ、普段の原町田大通りでは目にする事のない賑わいや交流が創出された。
- ✓ 滞留空間の利用者調査では、社会実験時の滞留空間が「良かった」と回答した人は50%（「良くなかった」は3%と少数だった）。
- ✓ 滞留空間周辺の歩行者調査では、社会実験時の滞留空間を「利用してみたい」と回答した人は56%（「利用することはない」は12%と少数だった）。
- ✓ ステッカーによる意見収集では、原町田大通りに休憩場所や座れる場所、緑、自然、オープンカフェがあると嬉しいという意見が多くあった。
- 😞 高さがある設置物（トレーラーハウス、オーニング）によって、近隣店舗の視認性を低下させる等の影響を与えてしまった。
- ✓ 集客を目的としたイベントは、歩行者の妨げになってしまった。

滞留空間整備の方向性

沿道に賑わいが生まれ、来街者の憩いの場となる滞留空間を整備する。

- ① 滞留空間に植栽やデザイン性の高いベンチ等を設置する。
- ② 滞留空間の幅広い活用のために、設置するベンチ等は配置が変更できるものにする。
- ③ 道路上の設置物は、歩行者の通行を妨げないように配慮する。
- ④ 近隣店舗の視認性を確保するため、高さのあるものは設置しない。
- ⑤ 整備後の管理・運営は、町田市と都市再生推進法人が、まちなかの事業者の方等と協力しながら行う。

2022年度原町田中央通り・原町田大通り社会実験～Machida weekend STREET～



○概要

原町田中央通り及び原町田大通りの沿道空間の貸出しを行い、日替わりでさまざまなお店やワークショップ等の出店を行った。原町田大通りでは、都市再生推進法人である(株)町田まちづくり公社とともに、原町田大通りのポケットパークを使って滞留空間を創出し、活用方法等を検証した。

【日時】2022年10月8日（土）～11月6日（日） 午前11時～午後7時※2

※2…滞留空間内の休憩スペースは社会実験期間中、夜間も含めて終日開放

○滞留空間の振り返り

- 😊 来街者調査の結果、通り沿いにあった方が良い機能としてベンチが85.4%、キッチンカーの出店が69.6%、緑が89.2%だったことから、いずれも多くの人から求められている。
- ✓ 滞留空間内に設置したベンチや植栽を可動式に設置したことで、出店の貸出し時等にフレキシブルな活用ができた。
- ✓ 休憩スペースの利用者の多くは、ポケットパーク内の既存のスツールではなく、社会実験で新たに設置したデザイン性の高い木製ベンチを利用していた。
- 😞 ポケットパークはJR町田駅側から見ると死角になっていることから、目立たなかった。
- ✓ 休憩スペースとキッチンカーの出店場所との距離があったため、キッチンカーと休憩スペースをセットで利用する人が少なかった。

2022年度社会実験アンケートより（対象：中対協幹事）

Q 社会実験中、町田駅中心市街地の人通りや雰囲気は変わったと思いますか？

<人通り> どちらかといえば増えた42%/
どちらともいえない・変わらない58%

<雰囲気> 良くなった・どちらかといえば良くなった75%/
どちらともいえない・変わらない25%

Q 今回の社会実験のような沿道を活用した取り組みは、来客数の増加や売り上げの増加などの経済効果につながるとは思いますか？

思う・どちらかといえば思う100%

人通りは増えた/変わらないがほぼ半数であったが、中心市街地の雰囲気については良くなったと答えた方が7割以上。また、沿道を活用した取り組みについては経済効果につながるという意見が10割であった。